

「なごや平和の日（仮称）の制定についての基本的な考え方（案）」 に対する市民意見の内容及び市の考え方

「なごや平和の日（仮称）の制定についての基本的な考え方（案）」に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

皆さまからいただいたご意見の概要と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、ご意見の内容は、一部を要約するとともに、趣旨の類似するものはまとめ、項目別に分割して掲載していますのでご了承ください。

令和 6 年 2 月 名古屋市

1 意見募集の概要

(1) 募集期間

令和 5 年 11 月 13 日（月）から令和 5 年 12 月 12 日（火）

(2) 提出状況

区 分	郵 便	ファックス	電子メール	持 参	合 計
提出者数	6 人	13 人	7 人	2 人	28 人

2 意見の内訳

項 目	件 数
1 条例全般について	17 件
2 目的について	3 件
3 名称について	0 件
4 日付について	3 件
5 事業の実施について	23 件
6 その他の意見	17 件
合 計	63 件

名古屋市総務局総合調整部総合調整室

電話：052-972-2223 ファックス：052-972-4112

電子メール：a2221@somu.city.nagoya.lg.jp

＜市民意見の概要及び市の考え方＞

1 条例全般について（17 件）

【市民意見】

- 名古屋は兵器工場が多いこともあり、空襲などによって建物だけでなく、多くの尊い生命が失われた。二度と生命が失われることがないよう、悲しいことが起こらないよう、その誓いとして平和の日を制定するのは良いと思う。
- 遺族会の手伝いをしており、戦死された方を忘れることがないよう日々を暮らしている。戦争を知らない世代が多くなり、「なごや平和の日」が制定されることを希望する。
- 戦災の記憶を留めた遺跡が風化しつつある。当時の記録と平和への希求を再考する日として「平和の日」制定に賛成する。
- 平和の日の制定は、戦争体験者には望むことである。現在の世界は、戦争当時の時代に移りかわっていくようで案じている。
- 東邦高校の生徒の提案を受けて「なごや平和の日」を制定するべく準備中との事、大賛成である。
- 二度と戦争のない世界にするために、平和を考える日は大事なことだと思われる。
- 戦争を知らない人が 85%以上存在する現在、後世に語り継ぐ必要が有ると思う。何らかの形で平和をより強く思うため、平和の日を設定することは意味があると思う。
- 歴史は繰り返し続ける。「争い」はこの世の中からなくならないと思う。だからこそ過去を繰り返さないために、なごや平和の日は必要だと思う。
- なごや平和の日が制定される事はとても嬉しい。
- 制定に賛意を表明する。
- 賛成する。
- 世界では依然戦争があり、世界が二分化されようとする今、二度と日本で戦争が起きない様に考えて「平和の日」をもうけるのもひとつと思う。今更とも。78 年経ち、どれだけの人が思いをはせるのでしょうか。
- 高校生のよう若い人が立ち上がるのは嬉しく思うが、他校の生徒はどの様に思っているのか疑問に思う。賛成・反対ゆれ動くが、私は終戦の日に重きをおきたい。
- 平和を祈る日は、8 月 15 日が既にあり、当時の名古屋市民は何処に住んでいようと合わせて祈ると思う。
- 条例にすると、市が呼び掛ける対象が現市民となり、範囲を狭めてしまう。
- 「条例」ということは、反することをすれば罰則が科せられるのか。
- なぜ今なのか。市民の気運が盛り上がっているのか疑問である。

【市の考え方】

戦後から 78 年が経ち、戦争・空襲体験者の話を聞く機会や平和について考える場が減少しているなか、戦争を知らない世代の理解を進め、平和を継承する取り組みが必要と考えております。また、国際的な情勢も含めて、平和を求める機運が高まっております。

本市としましては、「なごや平和の日」を中心に、年間を通して市民の方々の平和意識の醸成を図る取り組みを行うことで、平和な社会の発展に寄与することを目的として、日の制定に向けて検討を進めたいと考えております。

2 目的について（3 件）

【市民意見】

- 被害としてだけでなく、戦地に行き、兵士だけでなくその地域の住民などの尊い生命を奪った加害としての責任もある。この地上からあらゆる戦争をなくし、平和で穏やかな生活、暮らしを望んでいる。そういったことも含めて制定してほしい。
- とてもいい取り組みだと思う。自分たちが生活しているこの地で、多くの方が命を落としたことを知る機会になってほしい。名古屋市民に今後絶対に戦争による犠牲者を出さないという誓いの日にしましょう。
- 政令指定都市、中枢中核都市として「平和憲法の順守」の記載は必須。戦争は最大の人権侵害でもあるため、「基本的人権の遵守」も昨今の議論を見るまでもなく記載が必要。市民の平和は人権の擁護無しには存立しない。何故こうした普遍的なテーマ設定ができないのか。

【市の考え方】

本市としましては、「なごや平和の日」を中心に、年間を通して市民の方々の平和意識の醸成を図る取り組みを行うことで、平和な社会の発展に寄与することを目的として、日の制定に向けて検討を進めたいと考えております。

いただいたご意見につきましては、平和の継承や平和教育等の取り組みの参考とさせていただきます。

3 名称について（0 件）

4 日付について（3 件）

【市民意見】

- なごや平和の日（仮称）について、5 月 14 日は空襲の被害が大きかった内のひとつであり、名古屋でも大きな印象を占めている名古屋城との関わりも大きいため、一日を決める際にはこの日付が良いと思う。
- 名古屋城天守閣が焼失した日を慰霊の日兼平和の日に制定する案で考えているようだが、城の慰霊よりも人の慰霊を考えて欲しい。人の慰霊を考えるならば、犠牲者が最も多い日がふさわしい。名古屋市民が大事か、名古屋城が大事か、よく考えてほしい。
- 「名古屋空襲により犠牲になられた方々を悼む」ことから、第一に「人」である。物（名古屋城天守閣が焼失）ではない。名古屋市で最後の空襲日である 7 月 26 日を平和の日とすべきである。7 月 26 日であれば、学校で先生から名古屋空襲の説明を受け、夏休みに入ってから「展示館」へ出掛け「自由研究」をして授業に提出でき、語り継がれる。

【市の考え方】

本市においては、計 63 回もの空襲があり、それぞれの空襲において、様々な被害がありました。そのため、本市において有識者による名古屋空襲の犠牲者を追悼する日（仮称）協議会を設置し、委員の方々にご議論をいただいた上で、制定の目的や名称、日にち、事業についてのご提案をいただきました。

協議会のご意見においては、5月14日は「市街地全体へ被害が及んでいること」、「名古屋城が燃えたことは市民にとって印象深いこと」、「令和元年度に実施した市政アンケートの結果において、名古屋空襲のあった主な日にちの中で5月14日の認知度が一番高い日となっていること」などがありました。また、1年を通して名古屋空襲を考える取り組みを進めてほしいというご意見もいただいております。

本市としましては、協議会でのご提案を受け止めるとともに、市として整理させていただき、5月14日を「なごや平和の日」として定めることとしたいと考えております。

いただいたご意見につきましては、平和の継承や平和教育等の取り組みの参考とさせていただきます。

5 事業の実施について（23 件）

【市民意見】

- 一年を通して事業を行なうことで、戦争や名古屋空襲のことについて知り、考える機会に加え、現代だからこそ考えられる平和（暮らしているまち、日常の中で感じることなど）についても共有できる機会ができる。様々な形・視点で平和について考えられるのではないかと思います。
- 市民の平和意識の醸成は当然の事であり、名古屋空襲の犠牲者追悼・後世への言い伝え（継承）の取り組みが重要である。国際的に見ても「平和継承事業」の尊さ、大切さは必要かつ不可欠だと思う。
- なごや平和の日を休日にするなら、子どもも参加できる行事と催しを実施し、平和を考える日にしてほしい。被害だけでなく加害があったことも伝えていく必要がある。
- 世界では、武器による攻撃が起きている。平和に暮らしていくにはどうしたらよいか、子どもたちに体験を聞かせたり、調べたりしてほしい。
- 戦争の悲惨さを語り継ぐと言うが、経験世代、家族から聞かされた世代は何時までも生きていない。
- なごや平和の日には、戦争の悲惨さを体験できる（戦時中の食事など）コーナー、イベントを企画してほしい。
- 市全体で平和行進を計画するなど、名古屋空襲を後世に伝えられる運動をしてほしい。
- 平和について考える有意義な日になるような企画をしてほしい。
- イベントを開催するなど、市民をあげてできる取り組みを考えたい。
- 若い世代への平和の継承事業は、しっかりやってほしい。
- 戦争を知らない自分たちにとって、戦争は遠い世界の話のように思える。名古屋でどのような被害があったのか、地元の人はどういうような体験をしたのかなど、身近な地域の情報をもとに学習できれば、身近なものとして戦争を感じられると思う。
- 今の若い人に話しても、平和な生活が頭に入っているため、なかなかわかってくれない。平和の日の前に学校で先生から話しがあると親が話すより良いと思う。
- 名古屋空襲の犠牲者を追悼するとともに、2度と戦争がおこらないように平和教育を進めてほしい。
- 当日は、保育園、幼稚園、小中高で平和の大切さを伝える時間を作してほしい。
- 名古屋市内の小中学校、高校などで黙祷や名古屋空襲について学ぶ授業を行う。

- 小学校中学校で、平和の日に戦争体験、空襲体験を聞く会を行ってほしい。
- 「尊い犠牲があったからこそ今の平和がある」といった犠牲を美化する表現ではなく、「戦争で失われていい命などなかった。この様な惨劇は二度と繰り返してはならない」といった啓発を望む。
- 「平和の日」について、広くアピールしてほしい。
- 「平和の日」を制定するにあたり、市民に広く知らせるための碑を建ててほしい。
- 本市政の様々な催しでの対応に、市民の間に大きな疑問が生じており、行政が事業を主導することには反対する。いかなるものであっても市民が主導するものとすべき。
- 「平和の日」条例を定めているのは、17の行政機関しかないようだが、どのような事が行われ、その評価はどうか。
- 記念式典は開催しないでほしい。心静かにご冥福を祈る日にすべき。
- 「今日一日静かに祈りましょう」といった暗い日はいらない。

【市の考え方】

戦後から78年が経過し、戦争・空襲体験者の話を聞く機会や平和について考える場が減少しているなか、戦争を知らない世代の理解を進め、市民の平和意識の醸成が必要であると考えております。

いただいたご意見につきましては、平和の継承や平和教育等の取り組みの参考とさせていただきます。

6 その他の意見（17件）

【市民意見】

- 当時小学生で犬山に居住していた。3月頃に西方に火の帯が広がっていたことを記憶している。2〜3日後、名古屋の叔母たちが小さな包みを持って身を寄せ、すさまじい火災の様子と逃げまどう多くの市民の様子を話してくれた。幸い死者はいなかったが、家屋財産一切をなくした。
- 終戦の夜、父（第一次戦争シベリア出兵経験者）が「勝利していたら、戦地の息子も帰れない、一般市民には損にも得にもならん、負けたから帰れる（復員できる）のだ」と言っていた。家族が食卓に集まるが続くよう、40数年前の気持ちには変わりありません。
- 当時4才だった昭和20年5月14日、母に手を引かれて一宮の畑の中から名古屋空襲の様子を見た経験がある。戦後それが名古屋城の焼失であり、何千人もの人達が犠牲になった事を知った。
- 戦争未亡人の主人の母と同居していた。戦時中の悲しみ、戦後未亡人として2人の子どもを育てた戦争の辛さを話し、子や孫の代までも平和であることを祈り続けていた。
- 戦争中、中村区にて小学3,4年で大変だった。栄、名古屋城あたりは犠牲者が多かったと思う。
- 空襲を受け、田舎で貧しく苦しい生活が続いたと母から聞いていた。
- 名古屋市は昭和38年に「名古屋平和都市宣言」を出しているが、市民に広報されておらず、市民の平和への思いを高めるのに役立つことがされていない。平和都市宣言を市民にアピールできるモニュメントなどを作ってほしい。

- 憲法で戦争による解決はしないと決めた事なども学ぶ日にしてほしい。
- 日本国憲法（九条）を守ることを誓います。
- 若い人ももっと新聞を読んでほしい。

【市の考え方】

戦争体験等の貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございます。
いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。